

第 15 回 沖縄科学技術大学院大学学園の今後の諸課題に関する検討会 議事要旨

1. 日時：平成 30 年 9 月 18 日（火）10:00～12:21
2. 場所：沖縄科学技術大学院大学（OIST）C209
3. 出席者
 - (1) 構成員
相澤座長、西澤座長代理、岡崎委員、瀧澤委員、宮浦委員、山本委員
 - (2) 内閣府
北村沖縄振興局長、馬場審議官、重永次長、中島企画官、田巻専門官、山名専門官、大熊専門職
 - (3) OIST (オブザーバー)
グルース学長、バックマン首席副学長、コリンズプロボースト、吉尾 COO、高梨副学長、スコグラント研究科長、ホワイト副学長、アリ副学長、ディルワース副学長、プロヒッタ教員担当学監、トリップ副学長、ダイス副学長、岡本監事

4. 議事要旨

議事 1 平成 31 年度概算要求について（資料 1）

重永次長より資料について説明。

議事 2 10 年後見直しに向けた OIST の計画と現状について（資料 2、資料 3-1、3-2、3-3）

グルース学長より資料について説明がされた後、委員から主に以下のような指摘があった。

- 若手研究者の育成における OIST の役割は非常に大きく、日本も含めて各国から多くの若手研究者を雇用して、また世界中に戻すことが重要。
- 産学連携について、OIST は設立から約 10 年近く経っており、今後 5 年くらいの間に OIST らしいベンチャー企業が生まれて成功しないと、企業として本当にどこまで OIST と本気でつき合ったらよいかわからなくなってくるのではないかと懸念している。
また、TDIC（技術開発イノベーションセンター）について、トップ大学における最近の急速な変化から見ると、ほかの研究や教育がかなり進んでいるのに対して、一体何をしたいのか、この 5 年間、どういう成果が出てくるのかよく見えない。インキュベーションセンターの活用も含めて、もう少し具体的な戦略なりロードマップを示すべき。
- 世界を見ると、産学連携とトップクオリティのサイエンスがイノベーションをリードする時代に入ってきている。OIST が生み出したトップクオリティのサイエンスがイノベーションを誘起するような動きになってきているかどうか。

○寄付金及び基金からの利払いについて、すでに体制を作られたと聞いているが予測値、期待値を明確にされていないので、今後どのように外部資金を強化していくのか。

○沖縄の土地と親和性のある、沖縄の人々を巻き込むような形でぜひ事業をやっていただきたいと思う。特に基礎科学であればあるほど、次の世代への贈り物になる。子供たちの教育と非常に親和性が高いと思うので、日本、アジア、世界の子供たちが OIST との関係性をよりいっそう深められるような仕組みを作ってください、身近な存在であることを目指していただきたい。

議事 3 平成 30 年度内閣府外部委託推進調査 進捗状況報告（資料 4）

重永次長より資料について説明がされた後、委員から主に以下のような指摘があった。

○日本の国立大学の新しいやり方として、指定国立大学方式が出ているが、厳しく審査していると聞く。調査対象としてはレベルが合っているのではないか。

以上